
あいらの夏休み

みさきとあいす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいらの夏休み

【Nコード】

N7649H

【作者名】

みさきとあいす

【あらすじ】

友達いない歴4年、準引き籠もりニートの僕が出会ったのは、キミだった……。あいらと出会ってから変わり始める夏休み……。

(前書き)

初投稿です。

よかったですら感想ください><

知っているんです。最初から全部こうなることは。

いつだってそうでしたから。手に入れたものは全部消えて、ほしかったものは欲しくなくなって、いつしか感情だって消えるんです。

大学に入ったら自然に彼女ができると思っていた。

何かが変わると思っていた。

きっと、物事はいいほうへ向かうと何でかわからないけど信じていた。

何にも変わらなかった。大学に入ってから初めての夏休み。高校時代からそうんだけど夏休みは絶好の引き籠もり期間だ。いや、といてもわざとそうしてるんじゃないかって、そうせざるを得ないっていうか・・・なんというか友達がいらないんです。普通、大学生だと夏休みはバカンスですよ！楽しいですよ！あっ！外では花火のようですね！パンパンなっていますよ！・・・どうやら外ではなく隣の部屋みたいです。

僕は、地元の高校を卒業してから大阪の大学に進学した。

高校時代していたことといえばバイトぐらいだったんだけど、勉強をぜんぜんしなかった。なんというか、高校生って言えば遊びじゃね。って、思っているうちに時日が経った。もちろん、友達の数0。厳密に言うとなんではないんだけど、今は連絡とってないし0にしておく。

学校から自転車ですごくくらいのところのマンションで一人暮らしをしている。今はもう慣れてしまったが、最初の一ヶ月は精神的にも肉体的にもつらかった。そりゃ、今まで実家暮らしだったから洗

濯も料理もやったことがない。最初こそカップめんて飢えをしのいでいたのだけれども、最近では、自分でスーパーへ買い物に行き材料を買い、米を自炊して料理ができるようになった。これもすべてクッキングパパのおかげだ。漫画を読みながら料理の勉強ができるなんて、なんとすばらしいのだろう。うちの家にはオークションで買ったクッキングパパが全巻そろっている。といっても、あまり参考にはしない。

夏休みぐらい家事なんかやめて実家でごろごろしたいところなんだけど、そうはいかない。バイトがあるのだ。時給八百円のコンビニ店員。別に接客が好きな訳じゃないんだけど、なぜか気づいたら働いていた。実際、接客は嫌いで、裏で品だししている方が好きだ。働いてもう、4ヶ月近くになる。大学に入ってからすぐバイトを探した。僕の家はあまりお金持ちではなかったので、仕送りも少ないなるべくバイトして稼がなければ遊ぶお金が足りなくなると思ったからだ。だが、そんな心配いらなかった。友達もいないのでお金も使わない、趣味といった趣味もないのでお金を使わない。イコール、お金が貯まる。やっぱり、お金持ちがお金を持っているのは、無駄使いたくないからなんだと思う。貯金は高校時代からあわせて百万円ほどある。使い道は、ない。

おっと、そろそろバイトの時間だ。僕は、バイトよりバイトに行く前の、この時間の方が嫌いだと思った。それでも、時は過ぎてゆく。

「おはようございまーうす・・・」

いつも通り、形式だけの挨拶をして、バックルームに入り着替える。準備していると店長が女の子と一緒に近づいてくる。

「あ、そうそう。今日から新しい子が入ってきたから、ちゃんと教えてあげてね。」

「はじめましてっ！坂本あいらっていいいます！よろしくおねがいし

ますっ・・・」

僕は、衝撃を受けた！この子がまたかわいい！しかも、ブサメンの俺に対する嫌悪感がない！ちなみに、僕はこのバイト先でも友達がない。最初こそ、フレンドリーに話しかけてくれたのだが、持ち前のコミュニケーションスキルのなさで、会話は盛り上がることなくすぐに終わり、きまづい感じになる。そんなことを繰り返してうちに、完全に仕事仲間になってしまい、事務的会話しかしゃべらなくなっていた。まあ、それが顔のせいかどうかはわからない。が、しかし少なからず、それもあると僕は思う。

とにかく、これはチャンスなのだ。彼女を作るチャンスであり、友達を作るチャンスなのだ。なあに、心配いらぬ。こんな日のために、グーグル先生やヤフー知恵袋さんにコミュニケーションのとりかたってやつを教えてもらってある。ただ、一度きまづくなった人にそのテクニクを使うのは少々やりにくい。だが、彼女なら、初対面の彼女なら使える！

一通り仕事を教えて、あとはレジを練習するみたいな感じになった。といっても、うちの店はお客があまり多くないので、しゃべるのには絶好の機会だ。今こそ、俺のスーパーテクでくどいてやるぜ！

「坂本さんってさあ・・・処女？」

「え・・・何・・・きもっ」
おわった。

どうでもよかった。あんな女。ていうか誰だよ、最初に処女って聞いて下ネタにもっていつて、即はめに持って行ける。とか言ったの。そんなの信じてねーよ。消えたい、死にたい、殺したい。わからない。先が見えない。前が見えない。現実が見えない。

いや、そりゃキモイっていわれるわ。あほでもわかる。ただ僕は死にたいだけなんだ。チャンスはあった。だけど、ない方がよかつ

た。恐かった。失敗するのが恐かった。チャンスだー！なんて期待して無様に失敗するのが恐かった。だから逃げた。いつだって僕は逃げていた。

吐き気がする。

うわあああああうううううううああつあああうあつわあああああ
あああああ

先ほど趣味がないと私は言いましたがそれは、嘘です。本当の趣味は、為替です。知っていますか？その気になれば、1分で何百万円儲けることができるんです。もちろん、逆もありますよ。昨日、口座には二百万円ありました。とても、うれしかったです。人間欲深いつて言うのは本当のようです。もっと・・・もっと・・・といっている内に気づいたら元の資金の百万円もいつしか十万円になっていました。

おかしい・・・オカシイ・・・

確かに、二十四時間前はとても幸せだったんです。友達とか別にいらね。ってな感じで、お金さえあれば幸せさ♪なんて、多分、生まれてから一番幸せだったと思う。

まさか、次の日こんな目に遭うとは思わなかった。死にたい。何を焦っていたのかは分からない。ただ、焦燥感に惹かれた。急がなくていいはずなのに。何かにとりつかれたかのように。しねしねしねしねしねい。これは、現実か、現実なのか、嘘だ、夢だ。

すべてこうなったのも劣等感のせいだ。あああああああああ。
ああああああああああああああああああ。

昔からあるニキビ、食べても太らないがりがりのからだ、出っ歯・
・数えたらきりが無い。死にたい、何もしたくない。見えない。吐
き気がする。

「殺してほしいいいいいいい！」

僕は叫んだ。バイトが終わり、少し離れた公園でさげんだ。もう、
他人にどう思われてもよかったので、思いつきり叫んだ。何度も、
何度も。

ドスッ。鈍い音がしたのと同時に、背中に痛みを感じた。バラン
スを崩し前に倒れ込む。

「いつてー……。誰だこりああ！」

多分、背中を蹴られたんだと思う。絶対殺してやる。と思って振り
返りながらさけ

「ずいぶん、楽しそうなことをしてるんですね。先輩。」

振り返るとそこには、坂本あいら。びっくりした。と同時になぜか
恥ずかしくなった。こんな状況でもやっぱり他人の目は気になって
しまうのがまた、自分に対していらいらした。

「なに。あいら？」

どうでもよかったので呼び捨てにしてやる。むかつく。

「先輩にとりついてるのは、たちの悪い悪霊です」

！！！！その発想はなかった！そうか、だから俺はこんなについてな
いのか！そうなのか！多分、イギリスかローマの法王の地縛霊がつ
いているんだろう！やることなすこと裏目に出るのもそのせいか！

「はやく除霊してくれ！」

俺は叫んだ。あいらは俺に近づいて包丁を向けた。なんとなく、ミ
ライが分かった。すごくて？多分この能力があったら今頃投資で億
万長者だよ。なんでもっと早く開花しなかったのだと悔やむ。

ブスッ。のど元に包丁が刺さる。刺さる。刺さる。血が出る。人の
刺し方をよく心得ている。笑える。俺は死んだ。

目が覚めた。いつもと変わらない光景。

「なんだ、夢だったの。」
周りを見渡す。

灰色に狭い檻の中にアタシはいた。

やっぱり、あいつは死んだ。

(後書き)

途中でぶん投げてしまいました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7649h/>

あいらの夏休み

2010年12月25日14時29分発行